

# 光市医師会報

平成元年 8 月号

No. 202



盆 の 月

光市医師会

# 医 師 会 月 間 行 事

## 平成元年7月度理事会

7月11日(火) 午後7時30分～

光市医師会館

出席者：竹中会長、福本副会長、

丸岩・富恵・藤原・近藤・吉村各理事

### 議 題 (報告・協議事項)

- 1) 山口県医師会長会議の報告  
山口県医師国保組合会の報告  
山口県医師会互助会支部長会議の報告  
山口県医師連盟郡市代表者会議の報告  
(福本副会長)
- 2) ファクシミリの問題点について  
(竹中会長)  
(親機の問題点) 会員全部に送るのに要す時間が約1時間かかる。  
(子機の問題点) 専用の回線の無い所は切り換え等に問題がある。  
その対策として、親機に関しては専用の回線をいれる方向で検討する。子機に関しては(受ける側)曜日と時間を決めて送ったらどうか等の意見が出たが、現状のままと云う結論になる。
- 3) 下松医師会との役員協議会の議題等  
(竹中会長)  
生涯教育研修会の回数の件、バス運行の件、出務手当に関する件、講師の謝礼の件等
- 4) 学校保健担当理事協議会の報告  
(福本副会長)  
乳幼児・児童・生徒受療者実態調査等
- 5) 光三師会役員会報告 (福本副会長)

竹中・福本・渡辺・藤原各役員出席

今年度の行事として、10月に日帰りバス旅行を行なう

- 6) 住民保健担当理事協議会の報告  
(富恵理事)  
日本体育協会主催公認スポーツドクター養成講習会について等
- 7) 薬物乱用対策推進会議の報告  
(丸岩理事)
- 8) 医事紛争担当理事協議会の報告  
(丸岩理事)
- 9) 生涯教育担当理事協議会の報告  
(赤崎理事→竹中会長)  
地方学会の演題はA会員から多く出して欲しい。病院もできるだけ協力する。
- 10) 光市医師会一会計報告(4～6月分)  
(藤原理事)
- 11) 事務職員の夏期賞与について  
(藤原理事)  
賞与額は昨年通りとする。
- 12) 医師税制に関する討議会の件  
イ) 日時—8月25日、午後7時より  
ロ) 出席者—竹中会長、福本副会長、丸岩・梅田・吉村・田中・高橋・渡辺会員  
ハ) 討議形式—懇談会形式
- 13) その他  
イ) 納涼懇親会の案内状の件、関係外の出席者の件  
ロ) 松岡氏選挙の件  
ハ) 外車の税金に関する件  
ニ) 出務手当の税に関する件

- ホ) 平成元年度医業経営勉強会について  
 へ) 光市医師会規則集の件

## 下松・光市医師会合同役員会

7月18日(火) 午後7時～

光市松屋

出席者

(光市医師会)

竹中会長・福本副会長、富恵・丸岩・  
 赤崎・近藤・梅田・藤原・吉村各理事

(下松医師会)

西辻会長、藤原副会長、加来・松野・  
 萩野・武内・澤・岡藤・野見山各理事

### 協議事項

- 1) 生涯教育に関する事項
- 2) 各種出務手当に関する事項
- 3) 講師謝礼に関する事項
- 4) 文書料に関する事項

## 平成元年7月度月例会

7月25日(火) 午後7時30分～

光市医師会館

### 議 題 (報告・協議事項)

- 1) 周南地区健保組合との協議会報告  
 (竹中会長)
- 2) 下松医師会との役員協議会報告  
 (竹中会長)
- 3) 医師会長会議等の報告 (福本副会長)
  - ㊦ 山口県医師国保組合
  - ㊧ 山口県郡市医師会長会議
  - ㊨ 山口県医師会互助会支部長会議
  - ㊩ 山口県医師連盟郡市代表者会議
- 4) 学校保健担当理事協議会報告  
 (福本副会長)

5) 光三師会役員会報告 (福本副会長)

6) 住民保健担当理事協議会報告

(富恵理事)

7) 医事紛争担当理事協議会報告

(丸岩理事)

8) 生涯教育担当理事協議会報告

(赤崎理事→代)竹中会長)

9) その他

イ) サマーフェスティバルの件

多くの参加を希望 (梅田理事)

ロ) 会員親睦旅行の件 (梅田理事)

ハ) 社保・国保審査委員合同協議会の審  
 査に関する意見・要望に関する件

ニ) 松村先生療養お見舞いの件

ホ) 医師国保所得調査の件

ヘ) 組合員の市町村民税課税標準額の調査

ト) 胃癌検診講習会の開催に関する件

チ) 自賠償保険算定基準の件

リ) 医師年金普及促進月間の件

## 心電図研究会 (第13回)

下松・光市医師会共同

7月21日(金) 午後7時30分～

光市立病院講義室

### 演 題 「心電図の読み方」

講 師 徳山中央病院 河野隆仕先生

(症例) 心筋梗塞2例

### 研修会バス運行

第12回山口県医師会生涯研修セミナー

7月23日(日) 山口県教育会館ホール

### 光市・県医師会関連行事等出席

1) 郡市医師会長会議等

福本副会長出席 7月6日 県医師会館

2) 郡市医地域医療計画担当理事協議会

丸岩理事出席 7月27日 県医師会館

## 周南三市医師会、歯科医師会及び周南地区健康保険組合との懇談会

7月13日(木) 午後4時～5時

東洋鋼鈹健保会館

(式次第)

- 1) 司 会 下松医師会藤原副会長
- 2) 開会挨拶 下松医師会西辻会長  
西京銀行健保管原常務理事
- 3) 自己紹介
- 4) 議 事 質疑応答
- 5) 閉会挨拶 下松歯科医師会白倉会長

(出席者)

光市医師会—竹中昭二、福本寿雄、

近藤龍一、藤原邦彦、吉村明人

徳山医師会—永末 和、長沼芳季

下松医師会—西辻知生、藤原敏雄

岡藤 賢、松野 靖、武内節夫

野見山正寿、澤 哲一郎

光市歯科医師会

守田忠正、国本法雄、諏訪高志

徳山歯科医師会

小野哲男、藤田省三、水津 皎

下松歯医師会—白倉安祐、杉原保夫、

田中 悟、白倉 守、山内晴夫

新日本製鉄健康保険組合光支部

小澤孝正、古谷 清、山本美智子

日立製作所健康保険組合笠戸支部

井草剛仁、塚本 晃、柳 義助

東洋鋼鈹健康保険組合

中田士郎、福田勝人、松本泰治

徳山曹達健康保険組合

石川泉助、戎崎幸夫

日新製鋼健康保険組合周南支部

阿部 健、林 秀雄

東ソー健康保険組合



牛島克己、青木義明、原田文雄

西京銀行健康保険組合

管原秀明、杉本清一

健康保健組合連合会山口連合会

橋本好彦

(意見・要望・質問等)

1) 組合よりの再審請求は、一応申し合わせで、6ヵ月以内分となっているので、宜しく御協力をお願いしたい。

2) 減点分自己負担の払い戻し指示は、医師と患者の信頼関係に大きな影響を与えるので、是非施行されないように。

(答) 周南地域ではしていない。

3) 現在、国保ではレセプトの点検を外部委託し、患者のプライバシー問題、審査の形骸化として問題になっている。各組合の状況について。

(答) 一部の組合ではおこなっているが、点検料は出来高払い制ではない。

(費用の確答は得られなかった。)

4) 最近、保険者側からの再審査請求が増加しているとのことであるが、それについて、どのような項目が多いのか、各組合の様子を判ればお教え願いたい。

(答) 資格に関するものがほとんどである。

懇親会—懇談会終了後

## コンピュータによる病歴管理

光 武 達 夫

私は開業して丸五年たつが日頃診療して  
いて医者とはなんと書いたり記録したりし  
ておくことが多い職業かと思つづく。診  
療録の記録と整理その保管についても開  
業してまもなくの頃は当たり前の事と思  
い、むしろカルテがふえていくのを喜び  
として記録したり厚くなったカルテを更  
新してきた。しかし通院歴の長い患者に  
ついてはカルテを新しくする場合、なに  
がしかの既往歴とその要点を書き写し  
ておく必要性が生じる。検査結果や処  
方内容についても同様である。そうし  
ておかないと過去の診療が今後に反  
映されない気がするし第一不安である。  
そうすると年々このカルテ更新の作  
業は煩雑で手間を食う作業となる。開  
業している友人や先輩にそれとなく聞  
いてみるが、カルテが厚くなったら中  
身だけ抜いて保管するとか、名前と記  
号番号等必要最少限度の事しか書か  
ないとか、使えるだけ何年も同じカル  
テを使うとか様々であるがいつまでも  
同じカルテを使用するのはカルテの汚  
染、破損も著しいだろうし、どうも私  
にはピツタシこない。学生時代かなり  
ふるく黄色に変色したノートを持参さ  
れて講義をされる先生がおられたが、  
去年もいやその前の年も同じノートで  
講義されたように思われいかにも新  
鮮さに欠ける気のりしない授業だっ  
たことを記憶している。

私の医院では毎年暮れから新年に  
かけて病名欄が満杯になったカルテや  
分厚くなりすぎたカルテを新カルテに  
やり変えること

にしている。どうしてこの時期にやる  
ようになったかさだかではないが皆が気  
分一新して正月を迎えましょうとい  
うのには一番ふさわしいのではないか  
と思う。表紙と傷病名などは事務職  
員が書いてくれるが先きにものべた  
ようなその患者のこれまでの医療の概  
略と処方などはどうしても私が書か  
なければならぬ。かくして毎年、々々  
同じような内容を新カルテに写す作  
業が続いた。だが去年の暮れからこの  
仕事が非常にうっとおしく時間の無  
駄使いのように思われてきた。なんと  
か一度記録したらずっと使えるよう  
な方法はないだろうかと思案に考  
えた。それにはコンピュータの力をか  
りするという方法しかなかった。これ  
までの病歴をコンピュータ入力してお  
けば必要なとき出力して画面上に  
再現可能である。そうするとその後  
は新しい変化だけを入力すればよい。  
これまでの煩雑な書く作業に比べて  
格段に楽になる事になる。よくよく  
考えた末コンピュータ会社に相談した。  
レセプト・コンピュータは開業してま  
もなく、これも書くのに音を上げて導  
入したがプログラムがこれとはまっ  
たく異なるのでレセコンを利用する  
ことは出来なかった。山口市のNEC  
会社に何度も足を運びあてもない、  
こうでもない相談してカルテ専用  
のプログラムを作成してもらった。こ  
れは一人の患者が上中下の三面のス  
ペースを持ちこれに患者の病歴、検  
査結果等を入力さえしておけば、出  
力は患者番号さえ押せば瞬時にし  
て入力記録された事が画面上に現  
われる、図表、絵、ECG等もコピー  
してそのまま入力出来る。そしてカ  
ルテではなくこの画面をみながら診  
察するということ

になるわけである。入力する作業はこの方面の経験や知識が零だった私にとっては当初はかなりの重荷だったが最近はかなり慣れた。何事も慣れが肝じんのようである。検査データをその日の内に入れてしまうのはかなりきつい日もあるが一度入力しておけば二度と入れる事はないという思いだけでやり続けている。

しかし機械のことである。時には思わぬ事故をおこすこともある。三百例程入力し終えた頃の事である。コンピュータ屋さんが私の希望にそって検査データを入れるワケ組みを変えようとしていたところ、どこで間違ったか一瞬にしてそれまで入力した事が全部消えてしまったのである。診療の合間に少しづつ入力したものがあっというまに無になってしまったのである。泣くにも泣けなかった。コンピュータ屋も恐縮して青くなっておるし怒るにおこれずストレスがたまる一方だった。それから数日は入力する気力もうせてコンピュータをながめていたが、コンピュータ屋がフロッピイを二重にして一度入力した事を更に別のフロッピイに写しとって保存するという二重の安全措置を構じてくれた。とにかくいずれは楽になるだろうとの一念でまたカタカタと入力して現在やっと七百例近くになった。まだ診療時の用には供しきれないが来年の正月までには診察机の上において使ってみようと思う。現在このコンピュータは診察室の隅の方において入力しているが、患者が「カタカタ」とキイをうっている私をみて「先生は最近ひまな時はパソコンゲームに熱中しておる」とうわさしているようだ。なんといわれようが自分が使ってみて楽

で便利な方がよいに決まっている。その内わかってくれると思う。

—昨年岡山で大きな病院を建て開業した私の同級生は自分の病院はすべてコンピュータによる院内ネットワークで結ばれており従来のカルテなるものはないと自慢していた。どういうシステムが一度見てみたいと思っている。

いずれにしろこうしたメディカルコンピュータの導入で、医者の方力が節約され医療の高度化、余暇の増加ひいては研究、教育にその余暇の時間も回わせるということであればすばらしい事だと思う。

## ◆ 編集後記 ◆

きびしい残暑が続いております。盆踊りの季節がやってまいりました。太鼓の音が島田川の川風に乗って響いてまいります。やぐらを囲んで輪になって踊る風景は夏の夜の風物詩となっております。盆の頃が夏と秋の境目だといわれており、すぐそこまで秋がしのび寄っているのかもしれません。

今月は光武先生に原稿を書いていただきましたが、新しい物へ挑戦される姿勢、見習いたいものです。

(吉村)

発行所	光市医師会 TEL 0833 72-2234
発行者	竹中昭二
編集者	会報編集委員会
印刷所	光市御崎町 中村印刷株式会社